

はくぶつかんの部屋 18

我如古平松や...



市立博物館では毎年、自治会を中心とした地域の方々と連携し「ぎのわんの字」展」と題した展示会を開催しています。

この展示会ではひとつの「字」にスポットを当て、その歴史や文化を紹介します。今回で6カ所目となる「字」展は、我如古区自治会との共催で我如古の歴史や文化を紹介いたします。

我如古には市の指定文化財第一号の「我如古ヒーシャーガー」や、市指定無形文化財の「我如古スンサーミー」など素晴らしい文化財があります。しかし、今回のぎのわんの「字」展のタイトルは「我如古平松やふんしからゆたさ我如古ムラ」となっています。皆さんはこのタイトルの中にある「我如古平松」をご存知でしょうか。

かつて、我如古には「我如古平松」と呼ばれる立派な松の木がありました。樹齢三百年と伝わる平松は横に大きく枝をのびし、その木の下は遊び庭とも言われ、スンサーミーを踊ったり、ムラの集会や記念撮影を行う場所であったりとムラのシンボルとして人びとに愛されていました。県内でも名勝として知られ、明治の歌人金武朝芳は「松経年」の題で我如古平松を歌っており、また、スンサーミーの歌詞にも「我如古平松や 枝持ちの美らさ 我如古

美童や 身持ちの清らさ」や「我如古平松や ふんしからゆたさ」など、我如古平松を称える歌詞が見受けられます。しかし、現在では残念ながら沖繩戦で戦火を受けて失われてしまい、その姿を見ることはできません。しかし、失われてもなお、我如古平松は我如古のシンボルとして人びとの心に残っており、老人クラブ（平松の会）の名前などにも平松の名前が見られます。現在は、1964（昭和39）年に植えられた二代目平松を同区公民館の広場で見ることが出来ます。

展示会では他にも我如古の歴史や文化を紹介しています。是非この機会に博物館に訪れてみませんか。

◆ぎのわんの「字」展
我如古平松やふんしからゆたさ我如古ムラ
期間：2月5日（水）～3月2日（日）
場所：市立博物館 企画展示室
入場：無料



▲戦前の我如古平松



▲二代目の我如古平松(2013年)

【お問合せ】市立博物館 ☎870-9317
入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館下さい。

茶ぐわーゆんたく

118

宇地泊とアンブシ漁

戦前の宜野湾村では農業が中心でしたが、西海岸に面する宇地泊は唯一、漁業を生業としていた半農半漁のムラでした。

昭和10年度発行の『経済更生計画及其ノ実行費』に、「本村八僅二字宇地泊二漁業ヲ見ルノミニシテ他ハ純農村ナリ 宇地泊ハ五三戸ノ漁業者ヲ有シ〔略〕村内魚類ノ需要ハ一手二此ノ部落ニ依リテ供給サル、ノ状態ナリ」とあります。この記述から、戦前の宜野湾村の漁業は宇地泊が主であり、宇地泊は村内の需要を満たす、水産物の供給源だったことが見て取れます。宇地泊の第一次産業に占める、漁民の割合も、約39.6パーセントに達していました。

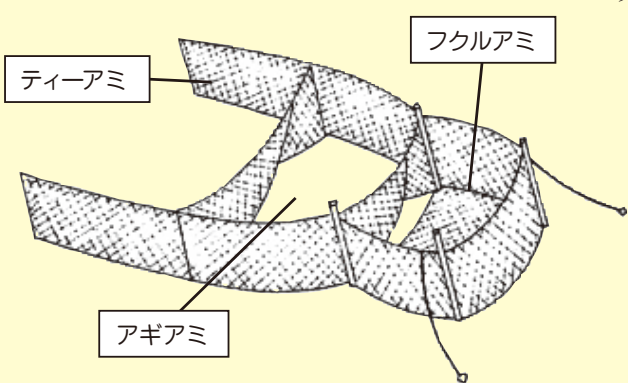
こうした宇地泊の漁業を支えたのは、主に沖繩の伝統的な剥船であるサバニで行う網漁でした。その中でも漁獲高が圧倒的だったのがアンブシ漁で、一年を通して行われました。

アンブシ漁はあらかじめ定置網を設置し、潮の満ち引きを利用した漁法です。アンブシアミは魚を集めるフクラアミ（袋網）と逃げを防ぐティーアミ（袖網）・アギアミ（逆網）からなっています。また、翌日のアンブシアミを設置するために、その日

の夕方までに棒を立てておくなど、場所取りも行われていました。

その他には、サンゴ礁の割れ目を利用して網を設置し、漁民が潜りながら魚を追い込む、ヒチグワーアミ漁など、複数の漁法がありました。

時代の波と共に、宇地泊の漁業のかたちも変わりましたが、戦前の働く光景は、地域の記憶として残しておきたいものです。



アンブシアミのイメージイラスト『宜野湾市史』第5巻

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)
☎870-9317

